

学籍番号：224005 名 前：今井 友紀康 Yukiyasu, IMAI

研究室：遠藤研究室

R7年度 長岡造形大学

美術・工芸学科 美術表現コース 卒業研究II

## 研究テーマ 「私がヒーローになるための特撮ドラマ」

### 1. この研究をした理由

- ・私は特撮ドラマが好きで、それに登場するヒーローの生き方に憧れているから私の経験や考え方を元に、私自身が特撮ヒーローに変身する映画を作りたい

### 2. 研究の意図

- ・研究をした理由から私が憧れるヒーローを挙げ、その生き方の共通点をまとめた結果「他者のために自分を変える生き方」が私の望む生き方だと分かった
- ・私自身いつも「自分のために自分を変えない生き方」をしていると自覚する場面があり、物事を自己完結することや私欲によって他者を後回しにすることに危うさを感じていた
- ・「他者のために自分を変える生き方」をするためには私自身の変化が必要で、その心が変化する過程の一つを「主人公がヒーローになる物語」として作品にして、今後私が生きていく中での道標にしたい

### 3. 物語の概要

- ・物語の中には
  1. 「自分のために自分を変えない生き方」から「他者のために自分を変える生き方」に変化する主人公
  2. 自分のために他者を変える人物
  3. 「1」の影響を受けて行動を変える人物
  4. 「1」が自身を変える以前から協力関係にある人物を登場させることで、主人公が「他者のために自分を変える生き方」に至る理由と、生き方の変化が主人公の環境、結末をどのように変化させるのかを描こうと考えた
- ・作品名は「ブランネオ」
- ・ブランネオの登場人物に上の1～4を当てはめると  
1—ブランネオ (浜岡真新)

- 2—レプテリア星人
  - 3—武装雷撃隊、大野教授
  - 4—弥勒繼五、梶ノ子大怪獣イヅチ
- となり物語の構成上、それぞれ立ち位置と役割がある

#### 4.物語の結末と意図

- ・物語の結末は、「1」が勝者、「2」が敗者となり「1」に協力する「3」と「4」も勝者となる
- ・物語の構成上「1」が勝者となった理由・・・  
「他者のために自分を変える生き方」とは、多種多様な価値観を持って育った私たちが、現代社会という「様々な集団のルールを守り、社会のために働き、家族のために収入を得る場所」に自分の価値観を合わせていくもので、これは現代社会では正当性のあることだったから
- ・これは、私が「他者のために自分を変える生き方」をすることで他者と良好な関係を築き、社会に貢献して家族を守りたいと思うと同時に、それが現代社会で正当性を持つための手段の一つとして自分を守るものだという考えを意図している

#### 5.私にとっての「他者のために自分を変える生き方」

- ・「他者のために自分を変える生き方」がたとえ現代社会で正当性があったとしても、「自分のために自分を変えない生き方」から自分を変化させることは私にとって容易なことではなく、理想であると同時に恐怖の対象でもあった
- ・それは「他者のために自分を変える生き方」はある意味、自分が他者のためにした行いが最終的には自分に返ってくるという「因果応報」の考え方で未来を委ねるもので、「自分のために自分を変えない生き方」のように今すぐ自分を安心させてくれるものではないから  
その忍耐と孤独感に対する不安があった
- ・だからこの「自分を変化させる恐怖をどのように乗り越えるのか」という問いの答えが私にとって重要な意味を持つと思った  
またその問いと答えを作品に組み込むことで、この作品が私にとっての道標たりえると考えた

#### 6.私にとっての「自分のために自分を変えない生き方」

- ・私がこれまで「自分のために自分を変えない生き方」を許されてきたのは私が家族や周囲の大人たちに守られる立場で、私がいざれ社会に貢献するために教育を受ける立場にあったから

つまり私から何かを与えられなくても私を支えてくれる人たちがいたということ

・そしてそんな人たちがいたことや、その時期があったからこそ学べたことは違う学校や住む場所が変わっても失われることではなく、生きる支えであり続けてくれた

だから「自分のために自分を変えない生き方」は文字通り私のためになっていた

ここに「自分を変化させる恐怖をどのように乗り越えるのか」を解決するヒントがあると私は思った

・たとえ私の生き方と居場所が変わっても、変わらず心の支えになってくれる人や記憶があり、それこそが私の私たる所以で、それは孤独ではないと私は考えた

また自分の生きる支えになってくれた人たちを守ること、後の世代の人たちの生きる支えになることが、この先忍耐が必要なときにそれを乗り越える理由であり原動力になると私は考えた

・「自分を変化させる恐怖をどのように乗り越えるのか」の答えは、自分にとって変わらないものが心の支えとなり、自分を変化させるのは、それを守るためにあると認識すること

## 7.主人公の心の変化

・当初私は、主人公の心情変化のゴールを「変化を恐れない心を手に入れる」というざっくりしたものにしようと考えていた

しかし物語を作りながら、また自分の経験を解釈しながら「他者のために自分を変える生き方」というゴールと、生き方を変える恐怖をどのような考え方で、誰の力を借りて乗り越えるのかという過程を描くことが私にとって、より意義のある作品になるとを考えた

・私は、主人公が「劇作家の夢」と「他者を救うこと」の間で迷い、「夢への努力」と「戦士としての鍛錬」がどちらも中途半端になってしまったこと 자체を、主人公の「自分のために自分を変えない生き方」に位置付けた  
これは自分を守ること、失わないことに必死で他者に対して心を閉ざした状態

そしてその状態では、「劇作家の夢」と「他者を救うこと」をどちらも実現することは不可能で、主人公が「夢を一度捨てる」という決断に「他者を救うこと」の結果が伴うという構成にした

・主人公にとって「自分を変化させる恐怖」とは、夢を捨てることで今まで出会った人たちとの関係が途切れたり、自分が学んだことが無駄になったりすること

また他者を救うことが正しいと分かっていても、安住の地を離れて一人で戦うことへの不安だった

- ・そして「自分を変化させる恐怖」を主人公が乗り越えられた理由は、主人公が夢を捨てて「他者を救うこと」を選んでも、夢を追う中で出会った「3」や「4」の人物にあたる弥勒継五（主人公の友）と大野教授が自分を認め、助けてくれたこと

主人公は、その人たちこそ自分の本当の心の支えになってくれる人たちで、自分にとって「変わらないもの」であり、劇作家の夢を追いかけたことが無駄にならなかつたことに気づく

- ・主人公は自分を支えてくれた人たちを守るために、また自分ではない誰かが「夢」を追いかけることができるよう、「他者のために自分を変える生き方」を選び、戦いに身を投じることを決心する

こうして、私と主人公の心の変化をつなげることができた

## 8.物語の軸となる「因果応報」

- ・「5.私にとっての『他者のために自分を変える生き方』」でもこの言葉を使ったのだが、「因果応報」とは「原因に応じたそれなりの結果が生じる」という意味で、私はこの物語の構成をするにあたってこの因果応報を軸にした

私はこの因果応報という言葉に納得してしまう経験が何度もあるのだが、実際は教育上扱いやすい言葉が故に私がそう思い込んでいただけかもしれないし、人の行いによって未来でどのような報いを受けるかは誰にも分からぬといふのも、また現実的な話と言える

- ・私が物語を構成するにあたって因果応報を軸にした理由は、自分自身を現代社会で正当性のある生き方に変えた主人公と、その仲間が勝者となる結末を先に決めていたから

- ・その結末から物語を構成すると、主人公の「他者のために自分を変える生き方」に相反する生き方の「2」にあたるレプテリア星人はこの物語の悪役

レプテリア星人は「自分のために他者を変える生き方」をしたが故に「他者のために自分を変えられてしまう運命」を辿り、自ずとブランネオの前に敗れ去る結末になる

- ・レプテリア星人の目的は自ら旅立った故郷である地球を取り戻し、人間を自分たちの戦力として働かせ、ブランネオの持つ「永遠の命の力」を奪うことで、自分たちの都合のために地球と人間に変化を強いることだった

物語に登場するレプテリア星人は自らの仕事を全うしただけとも言えるが、先に戦いを仕掛け、複数の人間の命を奪つたことで許される余地を失つて

しまった

- ・また「4」の人物にあたる槌ノ子大怪獣イヅチも主人公を頼らざるを得なかつたとは言え、半ば強制的に主人公に力を託して戦いに巻き込んだため、味方でありながら「2」の側面を持つと言える  
そのため、物語の後半で自身も戦いの中で命を落としかける
- ・因果応報の軸に沿って物語を構成することで、この物語で「自分のために自分を変えない生き方」から「他者のために自分を変える生き方」に変化する重要さを描くことができたと思っている

#### 9.制作を振り返って

- ・私には長い時間変わらず心の支えになってくれる人と記憶があり、だからこそ「他者のために自分を変える生き方」に自分を変化させて、変わらないものと未来の自分を守りたい  
私の経験から生まれたこの考え方を元に、私自身が特撮ヒーローに変身する映画を作ることができた
- ・私がこの作品を作ることは、私にとっても「自分のために自分を変えない生き方」から「他者のために自分を変える生き方」へ変化する過程だと感じた  
いや、もはや生きていく中に、生活する中に他者のために自分を変えなければならぬ場面は溢れていることに、作品を作り始めてから気づいた少しでも他者の目線に立って生きてみると、自分自身が社会に溶け込んでいくような感覚があり、人と接したときに前より胸を張れる気がした  
人に頼られるのが少し嬉しいのはこういうことなのかもしれない
- ・考えてみると私が「自分のために自分を変えない生き方」をしていたのは自分の行きたい場所で、今の時期にしかできない経験をするためだったと思う  
でもそうやって教育を受けるにしても、遊ぶにしてもいずれ社会に貢献しなければならない立場である私に身につくことは、全て他者のためになります、と言うのは虫が良すぎるかもしれないが、私の中に何か人の役に立てる経験は無いかいつも模索したいと思う
- ・私はまだ「他者のために自分を変える生き方」ができているわけではないし、その生き方が果たして社会のどこに行っても通じるものなのかも今の私には分からぬ  
だが幸い日本国憲法も「国民の三大義務」において、他者に貢献するために行動を起こすことを私に促している  
楽なことではなさそうだが・・・

- ・それでも私はこの研究をしたことで、私にとっての社会に出る理由が分かつたし、そこにある恐怖も和らいだ気がする
- ・そして今まで私を支えてくれた、守ってくれた家族や周りの人たちの気持ちが少しだけ分かった気がする
- ・そして、それがおそらく私の憧れるヒーローたちの気持ちだ
- ・もう一人の私である浜岡真新＝ブランネオの勇気ある戦いを道標にこれから歩んでいこうと思う

#### 参考出典

---

- ・因果応報の意味  
<https://www.weblio.jp/content/因果応報>
- ・国民の三大義務  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/国民の三大義務>